

Rotary 鈴鹿西ロータリークラブ会報

所属： 国際ロータリー第 2630 地区 鈴鹿・亀山グループ；

創立： 1985 年 3 月 27 日； RI 認証： 1985 年 6 月 3 日(No. 1665)；

事務所： 〒513-0802 三重県鈴鹿市飯野寺家町 816 鈴鹿商工会議所 3F；

電話： 059-383-7077； FAX： 059-383-8501；

E-Mail： info@rotary-suzuka-west.org； <http://www.rotary-suzuka-west.org/>

例会場： 鈴鹿商工会議所 4F 大ホール； 例会日： 火曜日； 例会食事： 12: 00； 例会： 12: 30-13: 30；



インスピレーションになる

第 1593 回例会 2019 年 2 月 19 日(火)

例会場： 鈴鹿商工会議所 4F 大ホール

例会進行： 勇理維子 SAA

開始： 12: 30 終了： 13: 30

点鐘： 会長 加藤 稔

ソング： それでこそロータリー

ソングリーダー： 服部高宣 副 SAA

ゲスト： 鈴鹿西プロバスクラブ会員

杉野泰彦様

ビジター： 鈴鹿西プロバスクラブ会員

草野靖生様



さて、いよいよ私ども鈴鹿市西部を通る新名神高速道路が、来月 3 月 17 日 16 時に供用開始という発表がありました。いつも言いますが、この新名神高速道路が開通すると、鈴鹿スマートインター、サービスエリアが利用出来て、鈴鹿西部の観光・経済の利便性が増え、益々鈴鹿市西部が変わって来ると思います。新四日市 JCT - 亀山西 JCT 間の 23 km が開通すると、東名阪の朝夕の渋滞が 9 割方解消出来ると聞いております。私も、津方面への仕事の時、夕方の帰りには、渋滞で悩まされておりましたけれども、これで渋滞無くスムーズに通れるかなと期待しております。

ここで、私の建設業的な見方から新名神工事で出る残土についてお話をしたいと思います。新名神高速道路の工事の大量の残土は、工区内での「切土・盛土」で賄い、新名神工事の中で処理が出来ており、外部へ e の持ち出しが無く、工区は違っても同じ高



会長挨拶 加藤 稔 会長

みなさん、こんにちは。今日のゲストでお迎えしております、杉野 泰彦さんは、長年音楽の道を歩まれて来られ現在、鈴鹿西プロバスクラブの会員でもあられます。本日のテーマである「苦悩を突き抜けて 歓喜に至れ ベートーヴェンの人生に学ぶ」という、テーマのお話をさせて頂くことを楽しみにしております。

速道路工事で利用してしまうそうです。見事な計算がされていると思います。

先日、私は新聞紙面を見てびっくりしましたが、新名神工事は、国家的プロジェクトな工事であるから不法な残土投棄がされず良いのですが、東京の残土が三重の山にと、言う記事を見てびっくりしました。東京オリンピックを控え、開発が続く都心のビル建設に伴う、年間 29 万トンもの残土が、三重県尾鷲市の尾鷲港と、紀北町の長島港へと、船で運ばれているらしいのです。残土の規制の無い三重県に東京からの便もよく、港で荷揚げし、一日何台も往復出来る山林があるから東京郊外に捨てに行くより運搬コストが安くできるらしいです。三重県南部の山林は、後継者不足と林業の衰退とで、地権者にとっても良い収入が見込めるかららしいです。このような事態を受け三重県も残土搬入と、積上げの規制の検討を始めるらしいです。私たち建設業にとってもいいことだと思いますし、中には、残土の中に不純物も混ざっていて、そう言う風な規制を厳しくしても良いのかな、と言う思いです。

以上、私の挨拶とさせていただきます。

幹事報告 森 豊 幹事



1. 当クラブ例会変更のお知らせ

*2月26日(火)18:30～オーシャンテラス ホ

テル&ウェディングにおいて夜間例会

*3月5日(火)⇒3月10日(日) 鈴鹿商工会議所 4Fにおいて鈴鹿市児童詩コンクール表彰式 ※会員は9時にご集合ください。

(実行委員は8時30分)

*3月12日(火) 通常例会

*3月19日(火) 休会

*3月26日(火) 創立34周年記念例会 場所・時間は未定

2. 鈴鹿・亀山グループ各ロータリークラブ例会変更のお知らせ

鈴鹿RC:3月6日(水)12時30分～神戸公園記念植樹のため神戸城址公園本多町公民館

3. 四日市北ロータリークラブ例会場ならびに事務局移転のご案内

2019年3月5日より

(新) 例会場 四日市大学6号館5階 交流サロン

(新) 事務局 四日市大学6号館5階 504号室

※住所・電話・FAX・メールアドレスは変更ありません

4. ローターアクト第41回地区年次大会仮登録のご案内

日時:2019年5月25日(土)

本大会 13:30～17:30

懇親会&卒業式 18:30～20:30

場所:大垣フォーラムホテル

5. 去る2月11日に、パストガバナー竹腰兼壽様(岐阜南RC会員)がお亡くなりになりました。(享年84歳)なお、葬儀・告別式は2月15日に済まされております。クラブからは弔電を送らせて頂きました。

6. 本日例会終了後、現・次期合同理事、役員会を事務局において開催いたします。

委員会報告

* 2018-19 年度上半期皆出席者表彰

仲村義昌 出席副委員長

(敬称略・順不同)

【ホームクラブ皆出席者】加藤 稔、森 豊、世古口弘子 (3名)

【皆出席者】藤野恵子、藤田 充、服部高宣、勇理維子、伊藤義一、岸本春雄、小林 充、桃井力生、沖 俊成、奥村隆司、柴田友美 (11名)



* ローターアクト小委員会報告

川戸広樹 ローターアクト委員長



2月17日ローターアクト小委員会出席に大市に

行ってきました。会場は大垣市情報工房 2 階会議室 3 定員 36 人の会議室。12:30 から受付。

時間は 13:00 から 16:30 の予定でしたが、朝から RAC の会長幹事会が開かれており、RAC の地区役員と各 RAC の会長幹事、ロータリークラブの地区青少年奉仕委員長と RA 小委員会の委員長と委員の方々は午前中からの参加でした。そして午後からの小委員会はロータリークラブのローターアクト担当者を加えた会議でした。

会議は参加者の自己紹介から始まり、今年度前期の各ローターアクトクラブの活動報告。大垣西・四日市・松阪・本巣・鈴鹿西・四日市大学・岐阜聖徳学園大学の 7 クラブで、会長幹事が出席して報告したのが大垣西・四日市・本巣・岐阜成徳学園大学の 4 クラブで、報告資料提出があり、代読したのが松阪と四日市大学。鈴鹿西は報告書の提出もありませんでした。次に地区の前期報告と今後の予定。4/28・29 全国 RAC 研修会。5/25 (土) 第 41 回年次大会 大垣フォーラムホテル。参加をお願いします。として説明 承認 4/7。

2019-2020 年度地区運営に関して各 RAC にお願がありました。

- ① 各 RAC の会長・幹事・その他役員を決めてその氏名・連絡先(住所・電話・メールアドレス)を提出。期限は 3 月 17 日(日)
- ② 年間スケジュールの提出。期限 3 月 31 日(日) 例会予定、招待・記念行事(大きな行事)
- ③ クラブ分担金 5 万円の負担を毎年お願いしています。来年の予算に反映をお願いします。振込先は第 5 回会長幹事会(6/23)にお伝えします。
- ④ 連絡の回答について
行事案内や地区内連絡の際、未回答や連絡がつ

かない場合が多々ある。大変迷惑をしています。
必ず連絡が取れる連絡先を回答してください。
必ず連絡をしてください。

「鈴鹿西の場合現在全員 3 年生で次年度の役員
ができない。4 月にならないと次年度の予定が立
たないと説明し了解を得た。次年度に関して決ま
れば速やかに連絡する。」

次年度予定、予算書の説明。

会長幹事会に出席をしてほしい。(鈴鹿西は出席
がない) 大学の場合交通費がないという意見があ
ったので、大学基盤のクラブに交通補助費を予算
化します(案)

ノミニー 四日市 RAC の杉森氏で暫定承認(RC
の承認があればの条件付き)

総評、点鐘、合同写真撮影で 3 時過ぎに終了し
ました。

* 児童詩コンクール表彰式役割分担について

衣斐信行 児童詩コンクール委員



34 周年記念例会について

奥村隆司 親睦・家族委員長

3 月 26 日に周年記念例会を予定しています。内
容は理事会の承認を得たのちに、会員の皆様にお知
らせいたします。なお、委員の間での検討資料が、
奥村の手違いにより全員にメール送信されました。
誤送信ですのでお詫びいたします。



出席報告 仲村義昌 出席副委員長

正会員 40 名中 23 名出席。 出席率：63.88%

先週の補正出席率：67.56% (2/5)

先々週の補正出席率：70.27% (1/29)



ニコニコボックス報告

寺田有子 親睦・家族委員

順不同 敬称略

加藤 稔：鈴鹿西プロバスクラブ 杉野泰彦さん、
草野靖生さんようこそ。

森 豊：プロバスクラブ杉野様、草野様、本日は卓
話楽しみにしています。よろしくお願いいたします。

桃井力生：奨学金に少々。

野間芳実：プロバスクラブ杉野様、草野様を歓迎して！！

寺田有子：今日は会報の担当です。写真を撮らせていただきますので、宜しく願いいたします。

世古口弘子：長野方面への慰安旅行の為、欠席させていただきます。

小林 充：本日は世古口会員施設の慰安旅行参加につき、欠席させていただきます。

本日のプログラム

「苦悩を突き抜けて 歓喜に至れ」

ベートーヴェンの人生に学ぶ

鈴鹿西プロバスクラブ

杉野泰彦会員



いつも鈴鹿西のロータリアンの皆様には、わがプロバスクラブに温かいご支援を賜り、誠にありがとうございます。今日は荷が重いと感じていますが、ご恩返しの一端のつもりで話させていただきます。よろしくお願い致します。

さて、今日はベートーヴェンの「第九」を軸としてお話ししたいと思います。絶望的な状況から人生の勝利を開いたベートーヴェン。その人間力に光をあてながら、不可能を可能へと転換する、強き生

き方を学んでいきたいと思っております。

まずは時代背景ですが、中世のヨーロッパ、キリスト教会が絶対的な権力を持ち、それが腐敗堕落、暗黒時代を迎えます。その状態が飽和状態に達した時点で歴史に質的変換が起こります。その変化を、ごく大雑把に捉えますと、宗教改革・ルネサンス・啓蒙思想・産業革命そして、フランス革命へと続く流れです。ルソーの自然主義などが宣揚され、自由・平等・民主主義が謳われ、世は絶対王政から近代市民社会へと劇的に変化していくわけです。そこには当然ですが、既得権力との壮絶なせめぎあいが生まれます。

次に、シラー（1759～1805）について話しましょう。「疾風怒涛」の時代、日本でいえば明治維新前夜とでも申しましょうか、きらめく人材が相次いで出現します。文学ではゲーテでありシラーです。シラーは戯曲家として世に出ます。しかし、彼の反権力的な言動や作品は、領主の怒りを買って追放の身となります。戯曲家・詩人として有名になってきたものの、経済は困窮し身辺には常に危険が迫るという状態です。反面、シラーの支持者も現れます。ケルナー夫妻もその一人。これがモーツァルト同様、フリーメイソンの会員ですから歴史の妙味といえましょうか。そのケルナー夫妻は、シラーを囲んでのパーティーを主催します。席上、夫人が大切にしていたワイングラスが割れてしまいます。その時シラーのとっさの機転で事態が救われ、一同大いに湧き上がります。その勢いで一気に書き上げたのが「歓喜に寄す」なのです。「第九」で歌われる最初の合唱の結びでは「すべての人間が兄弟となる」と歌われますが、シラーが世に出た当初の詩では、「汝の魔力は剣による習慣が分け隔てていたものを、もう一度結びつけ、乞食は王侯の兄弟となる」

となっているのです。まさに革命の詩そのものです。

ベートーヴェン(1770～1827)は、以前、西ドイツの首都であったボンに生まれました。父は宮廷音楽家だったのですが飲んだくれ。子供をモーツァルトのような金の卵に育てようと深夜に厳しく二階に追いやる始末。色々ありましたが、ともあれ、彼は、気骨のある青年に育ちます。19才の時ボン大学の聴講生となり、急進主義者として知られたドイツ文学のシュナイダー教授の授業を聴講します。シラーの「歓喜に寄す」が発表されて間もないころです。講義の教材この詩が取り上げられ、教授の情熱的な講義に彼の熱い血が存分に掻き立てられたと考えても不自然ではないでしょう。1792年、彼がウィーンに出発する前、友人に「歓喜に寄す」全編に曲をつける。と、心情を漏らしています。もう一つ、彼の青春時代で押さえておきたいのがナポレオンの登場です。王政時代に庶民の一青年が、民衆の時代を開かんと躍り出てきたのですからベートーヴェンにとっては正に憧れのスターです。

さて、念願のウィーンにデビューした青年音楽家・ベートーヴェン。その頃から彼に宿命的な病魔が襲い掛かります。耐え難い耳鳴りです。それは日に日にひどくなっていきます。会話が不自然になり、不安と恐怖は募り、孤独になっていきます。やっと打ち明けた友人の医師の勧めにより、ウィーン郊外のハイリゲンシュタット村で静養に努めます。しかし、事態は絶望的になってしまいます。音楽家なのに耳が聞こえない。人生、ジ・エンドです。彼は遺書を書きます。有名な「ハイリゲンシュタット」の遺書です。

実は、ここからが本来のベートーヴェンなのです。彼の生命の奥深く宿っていた人間力、生命力が極限状態で開花したのです。蘇生第1作は交響曲第3番

「英雄」です。憧れの英雄ナポレオンを描いた作品といわれています。かつてない長大な曲です。表紙には「ボナパルト・ナポレオンに捧ぐ」と書き込みます。しかし、程なくナポレオンが皇帝に就いたとの知らせを受けます。彼は怒りの余り、表紙を羽ペンで殴り書き、名前のところには穴が空いています。絶望をスプリングボードに変え、彼は生まれ変わったのです。大きく境涯を開いたのです。「英雄」を起点として「運命」「田園」など、画期的な、否、革命的なベートーヴェン独特の傑作が次々と生まれます。この時代を、後の人々は「傑作の森」と呼んで讃えています。交響曲第8番が完成したのが1814年。彼の名声は頂点に達します。“ヨーロッパの光栄”と称えられます。

しかし、ここから10年間、運命は、彼を再びどん底につき落とします。時代の流れによる変化は、無残にも彼の脚光を奪います。その上、ベートーヴェンを悩ませる大問題が波浪を重ねるごとく降りかかってきます。年金で支えてきた貴族も次々と亡くなっていき経済的にも困窮をきたします。遂に、彼は、散策している折、乞食と間違われ、留置場に放り込まれてしまう始末です。耳は完全に聞こえません。再び地獄を見ます。二度目の死、絶体絶命です。当時の心境を、「まだ私は、納得できる作品を書き残していないのに・・・。」と述懐しています。そして、ベートーヴェンは、絶望の淵から、もう一度、死力を尽くして立ち上がるのです。そして、最高峰と称えられる2つの作品を生み出すのです。それが「荘厳ミサ」と「第九」です。人々は彼に「楽聖」という称号を贈り称賛しました。

「第九」は聴力を完全に奪われた彼が、二度の“地獄”をはね返してつかみ取った大境涯で書き上げた人生の結論であり「人類への贈り物」だと思ってお

ります。



「第九」についてのアナリーゼ（分析）は、会報原稿では割愛しますが、ベートーヴェンの生き様は、混沌とした現代に生きる私達に大きな示唆を与えてくれているのではないのでしょうか。“苦悩を突き抜けて歓喜に至れ”！これがベートーヴェンの万人へのエールです。私たちのこれからの人生、たとえ、どのような嵐に見舞われようと、自分の人間力を信じ抜き、毅然と強気で、勝利の軌道を自身で開いていこうではありませんか。

今日は大変に有難うございました。